【重要】救急科専門医申請書類　記載・提出時の注意点

【共通事項】

・記入の際は、黒または青のボールペン（インク）を使用すること。
・体裁が変わらない範囲であれば、ソフトウェアなどを利用し、PDF に直接入力したものを印刷するのも可。ただし、自筆署名・押印が必要な箇所があるので注意すること。
・書き損じを訂正する際は、訂正部分に二重線を引き、訂正印を押すこと。なお、書式第３号（救急勤務歴証明書）の訂正印は、病院長・救急部門長・所属長・指導者（救急科専門医、認証資格者）のいずれかの印でなければならない。**修正ペン・修正テープの使用は不可。**
・ 年号はすべて西暦で記載すること。
・ 提出された申請書類の差し替えおよび返却は原則として行っていない。
・**提出内容に虚偽記載を認めた場合には、制度委員会などで審議し、悪質なものには除名を含む処分が科せられるので、ご留意ください。**

【提出書類について】

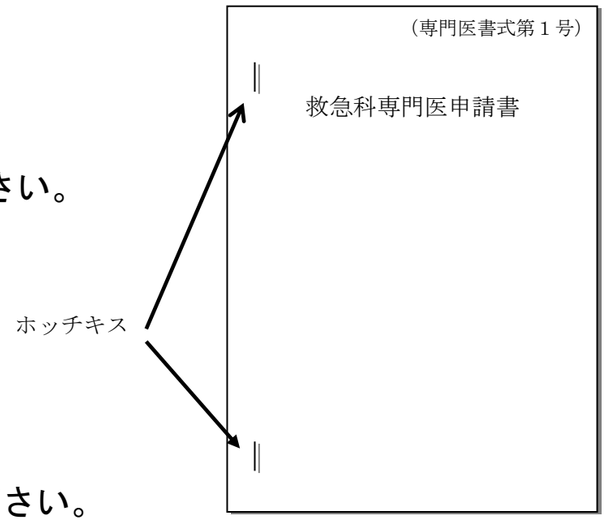
申請書類データを印刷、ご記入のうえ、下記のとおり整理し、ご提出ください。

1.申請書類原本

①申請書兼会員歴証明書（書式第１号）
②履歴書（書式第２号）
③救急勤務歴証明書【救急専従歴】（書式第３号の 1）
④救急勤務歴証明書【救急兼任歴】（書式第３号の 2）※
⑤医師免許証のコピー（白黒・A4 サイズに縮小可）
⑥申請手数料の入金証明（ATM 利用明細、送金完了画面などのコピー）
⑦新規申請提出書類チェックリスト

} 番号順にまとめ、左側長辺２ヶ所をホッチキスで綴じてください。

＜綴じ方見本＞



2.申請書類コピー　１１セット

①申請書兼会員歴証明書（書式第１号）
②履歴書（書式第２号）
③救急勤務歴証明書【救急専従歴】（書式第３号の 1）
④救急勤務歴証明書【救急兼任歴】（書式第３号の２）※

} ①～④を１セットごとに番号順にまとめ、左側長辺２ヶ所をホッチキスで綴じてください。合計 11 セット必要です。

※「④救急勤務歴証明書【救急兼任歴】（書式第３号の 2)」は、兼任歴の申告がない場合は提出不要

【提出締切日】

書類提出の締切日は　**2027 年 2 月 28 日（日）消印有効**　です。
締切日を過ぎて提出された申請書類は一切受理せず、返却いたしますのでご注意ください。
必ず、配達記録の残る方法（簡易書留、レターパックプラス、宅急便等）で送付して下さい。

＝書類提出先＝
日本救急医学会　専門医新規申請係
〒113-0033　東京都文京区本郷 3-3-12
ケイズビルディング3階
TEL　03-5840-9870

【申請書兼会員歴証明書（書式第１号)】

（専門医書式第１号）

受験番号：

（記入不要）

救急科専門医申請書

兼会員歴証明書

日本救急医学会　御中

日本救急医学会指導医・専門医制度による、救急科専門医の認定を申請いたします。

記入日（西暦）　20XX 年　2　月　10 日

フリガナ	ホンゴウ　タロウ	会員番号	ho9999
申請者氏名（署名）	本郷　太郎 ㊞	前回受験年	（西暦）2025 年
勤務先	施設名　本郷医科大学付属病院		
	科・部名　救急部		
	職名　医員		
	〒 000-0000 東京都文京区本郷××-×× TEL：03-XXXX-XXXX　FAX：03-XXXX-XXXX		
自宅住所	〒 000-0000 東京都新宿区×××-× TEL：03-XXXX-XXXX　03-XXXX-XXXX		
E-mail	＊＊＊＊@＊＊＊＊.ne.jp ※救急科専門医に認定された場合、更新時期などの重要なお知らせにも使用するため、それに適したメールアドレスの登録をお願いします		

勤務先・自宅住所・Email については会員データとして登録いたします。（現在すでに登録いただいている内容と相違がある場合には、今回記載いただいた内容に変更いたします）

【事務所記入欄】（以下は記入しないでください）

日本救急医学会会員歴証明書

上記の会員は、
申請時において、継続して３年以上本学会の会員であることを証明する。

年　月　日

一般社団法人
日本救急医学会

申請者本人が署名・捺印

会員番号は、会員専用ページ（e 医学会）＞学会会員検索　で調べられます。

前回受験年を西暦で記入（複数回受験の場合は直近の受験年を記入）
今回申請できるのは、過去に第二次（診療実績）審査まで合格している方

申請時に勤務している施設・病院の正式名称を記載（ゴム印でも可）

今後の異動・転居等が決まっている場合は、「4 月から」等と但し書きをつけて欄内の余白に記載ください。

申請書提出後に、勤務先等に変更がある場合は、日本救急医学会ホームページ内の「会員事務手続き」をご参照のうえ、お手続きください。

勤務先・自宅住所・Email については会員データとして登録します。（現在すでに登録いただいている内容と相違がある場合には、今回ご提出いただいた内容に変更します）

履　歴　書

氏　名：本郷　太郎

生年月日：19XX 年　1 月　1 日

卒業学校名　：　本郷医科　大学　　20XX 年　3 月卒業

医籍登録番号：　＊＊＊＊＊＊＊＊＊　　医籍登録年月日：20XX 年　4 月　30 日

職歴：勤務施設は、科・部名、職名まで記入のこと

勤務施設が救急科専門医指定施設の場合は、認定番号を[　　]内に記入すること。

記入欄不足の場合は、本書式をコピーすること

最近 3 ヶ月以内に撮影した写真を貼付すること

勤務期間（西暦）	勤務施設、科・部名、職名	専門医指定施設認定番号	指定施設での救急専従歴	非指定施設での救急専従歴	救急兼任歴
卒後初期臨床研修の救急専従歴（医籍登録年月日以降）を申請する場合には、下記に記載（専従歴を申請しない場合は記載不要。兼任歴は記載不可。）					
20XX 年 5 月 1 日～ 20XX 年 5 月 31 日	本郷医科大学付属病院救急部研修医	[0999]	1 ヶ月	ヶ月	-ヶ月
20XX 年 1 月 1 日～ 20XX 年 4 月 15 日	本郷医科大学付属病院救急部研修医	[0999]	2 ヶ月	ヶ月	-ヶ月
20XX 年 5 月 1 日～ 20XX 年 1 月 1 日	20XX 年 5 月 31 日～ 20XX 年 2 月 28 日　上記のうち、最小単位は連続して１か月以上として最従歴に加算可能。救急専従にカウントする３か月間を				
後期臨床研修以降から 2027 年 3 月に至るまでの職歴をすべて下記に記載 休職・留学・救急勤務歴以外の勤務等についても記載し期間にブランクが生じないようにすること					
20XX 年 4 月 1 日～ 20XX 年 3 月 31 日	新宿総合病院　救命救急センター　医員	[　　]	ヶ月	12 ヶ月	ヶ月
20XX 年 4 月 1 日～ 20XX 年 12 月 31 日	文京総合病院　麻酔科　医員	[　　]	ヶ月	ヶ月	ヶ月
20XX 年 1 月 1 日～ 20XX 年 3 月 31 日	文京総合病院　外科　医員	[　　]	ヶ月	ヶ月	27 ヶ月
20XX 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	本郷医科大学付属病院　救急部医員	[0999]	24 ヶ月	ヶ月	ヶ月
年 月 日～ 年 月 日			月	ヶ月	ヶ月
年 月 日～ 年 月 日			月	ヶ月	ヶ月
	現在に至る	合計	27 ヶ月	12 ヶ月	27 ヶ月

最終行は必ず 2027 年３月（見込みで記入する）

専従歴として申請する月数を記載

※専従とは　1）救急部門に所属すること。
2）救急部門の診療に従事すること。
※職員就業規則等において正規職員に定められた勤務時間を救急部門での業務に従事すること
3）専従歴の最小単位は連続して３か月以上とし、専従歴に加算することができる。
卒後初期臨床研修に関しては、専従歴の最小単位は連続して１か月以上とし、最大３か月まで専従歴に加算することができる。
なお、専任歴については、一括して兼任歴として扱う。

他学会の認定医、専門医、指導医等を取得している場合は、その名称・登録番号・取得年月日を下記に記入のこと

名称	登録番号	取得年月日

勤務施設が救急科専門医指定施設の場合は、[　　]に認定番号を記入する

※過去に指定施設として認定されていたが、現在失効している施設については、認定されていた期間のみ指定施設での勤務として扱う

※申請時に指定施設として認定されている施設は、施設認定前に行った勤務も、原則として指定施設での勤務とみなす

卒後初期臨床研修に関しては、医籍登録年月日以降の救急専従歴のみ記載可。最小単位は１か月以上、最大３か月まで加算可能

３か月をこえて救急専従している場合、専従にカウントする３か月は申請者が選択できる。診療実績審査で記載できるのは選択した３か月間に経験した症例のみ。

※月数の算出については、正味で行う。

（例１）１月１日～1 月 30 日＝1 か月未満なのでカウントできない

（例２）３月 10 日～7 月９日＝4 カ月なので、カウントを希望する３か月を選択する
例えば、３月 10 日～6 月９日

（例３）１月１日～1 月 31 日（1 か月）と３月１日～5 月 15 日（2 か月と 15 日）
＝3 か月と 15 日なので、カウントを希望する３か月を選択する
例えば、１月１日～1 月 31 日と３月１日～4 月 30 日

（例４）５月１日～7 月 15 日＝2 か月と 15 日→2 か月の専従歴として申告できる

本年３月末（見込み）までに申請者自身が勤務したすべての施設を記載。

※記入欄が足りない場合は、本書式を複数枚ご提出ください
（写真貼付や卒業学校名等は１枚目のみでよい）

救急専従歴または救急兼任歴として申告する期間については、その月数を、勤務形態により右３列の該当欄に記入する

※救急専従とは

1）救急部門に所属すること。

2）救急部門の診療に従事すること。
※職員就業規則等において正規職員に定められた勤務時間を救急部門での業務に従事すること

3）専従歴の最小単位は連続して３か月以上とし、専従歴に加算することができる。
ここで言う「最小単位は連続して３か月以上」は正味（まる）３か月を最小単位」の意である。連続して３か月以上の勤務でない場合は、救急専従歴に認められないので救急兼任歴として申告すること。
ただし、卒後初期臨床研修に関しては、救急専従歴のみ記載可。（救急兼任歴の記載不可）最小単位は連続して１か月以上とし、最大３か月まで専従歴に加算することができる）

なお、専任歴については、一括して兼任歴として扱う。

専門医指定施設認定番号 0999　　（専門医書式第３号の１）

専門医指定施設の場合は
認定番号を記入
専門医指定施設でない場合
は空欄のままとする

救急勤務歴証明書【救急専従歴】

申請者氏名：本郷　太郎

病院名：本郷医科大学附属病院　　救急部門名：救急部

所在地：〒000-0000　東京都文京区本郷＊－＊－＊

電話番号：03－＊＊＊＊－＊＊＊＊

救急部門における専従期間：

（西暦）	2018	5	1		2018	5	31			
	2019	年 1	月 1	日～	2019	年 4	月15	日	計	27 ヶ月
	2025	4	1		2027	3	31	（見込）		

専従の内容：１週あたりの救急専従日数：5 日／週、　１日あたりの救急専従時間：8 時間／日

救急部門年間患者総数	17,000 名
救急部門年間救急車搬送患者総数	8,500 名

（申請者が勤務した期間のうち、最新の一年間の数字を記載すること）

以上の通り証明します。

2027 年　2 月　1 日

病院名・病院長名は
ゴム印可

病院名：本郷医科大学附属病院

病院長名：東京　太郎　　公印

救急部門長
救急科専門医
認証資格者は必ず
本人の直筆署名・捺印

※救急部門長と指導者が同一人物の場合でもそれぞれの欄に署名・捺印のこと。

救急部門長署名：上野　一郎　　印

役職：救急部長

指導者

救急科専門医署名：新宿　二郎　　印

救急科専門医番号：9999

（救急科専門医が不在の場合）

認証資格者署名：　　印

日本救急医学会会員番号：

【救急勤務歴証明書【救急専従歴】（書式第３号の１）】

※ 書式第２号（履歴書）において、救急専従歴として申告のある施設については、必ず本書式を提出すること

※ 書式第３号の１に訂正がある場合の訂正印は、病院長・救急部門長・指導者（救急科専門医、認証資格者）のいずれかの印でなければならない

勤務施設が複数の場合は、それぞれの施設分この書式を作成すること

専従歴の最小単位は「連続して３か月以上」
※月数の算出については、正味で行い、１カ月に満たない日数は切り捨てる。
（例１）１月１日～４月 25 日＝３カ月と 25 日→３カ月
（例２）３月 10 日～７月９日＝４カ月
（例３）１月１日～３月 10 日＝２カ月と 10 日→２カ月→３カ月未満なので、救急専従歴に記載不可
※専従歴が連続していれば、施設は異動していてもよい
１月１日～31 日にＡ病院、２月１日～３月 31 日にＢ病院でも連続して３か月

この２行は卒後初期臨床研修中の専従歴の記載例
※卒後初期臨臨床研修に関しては医籍登録年月日以降の救急専従歴のみ記載可
最小単位は連続して１か月以上として最大３か月まで専従歴に加算可能。
この用紙（書式３号の１）には実際の専従期間を記載するのでもカウントを希望する期間のみの記載でもどちらでも OK。審査時には、履歴書（書式第２号）に記載のカウントを希望する期間のみ専従歴に加算される

現在の勤務先を提出する場合は、本年３月末までの見込みを記載する

１施設で複数年勤務した場合、申請者が勤務した期間を含む最新の１年間の数字を記載
勤務期間が１年に満たない場合も、申請者が勤務した期間を含む最新の１年間の数字を記載
※1 月～12 月、４月～３月など算出しやすい期間でよい

「病院長」「救急部門長」「救急科専門医」「認証資格者」は申請者の在籍時ではなく、現在その施設に勤務する者とする

指導者とは、現在その施設に常勤する「救急科専門医」（不在の場合は「認証資格者」）のことをいう。
※必ずしも診療に関する直接の指導者を指すわけではありません。
※指導者が不在の施設の勤務証明書は認められない。

救急科専門医の直筆署名・捺印、救急科専門医番号を記載する。
現在その施設に常勤する救急科専門医が不在の場合は、救急科専門医欄は空欄のままとし、認証資格者欄へ記載する。

救急科専門医がいれば、認証資格者欄への記載は不要
認証資格者の直筆署名・捺印、日本救急医学会会員番号を記載する。
※認証資格者とは、「救急医学に関連する日本医学会分科会」もしくは「その他の救急医学に関連する学会・研究会」の専門医で、日本救急医学会会員であり、本学会に認証資格者として申請し認められた者をいう。

専門医指定施設認定番号＿＿＿＿＿＿　　（専門医書式第３号の２）

専門医指定施設の場合は
認定番号を記入
専門医指定施設でない場合
は空欄のままとする

救急勤務歴証明書【救急兼任歴】

申請者氏名：**本郷　太郎**

病院名：**文京総合病院**　　科・部名：**外科**

所在地：**〒000-0000　東京都文京区本郷＊－＊－＊**

電話番号：**03－＊＊＊＊－＊＊＊＊**

兼任として救急診療を行った期間：

（西暦）　**2021** 年 **1** 月 **1** 日～　**2023** 年 **3** 月 **31** 日　計 **27** ヶ月

兼任の内容：1 週あたりの救急兼任回数：**2** 回／週（ 半日・一日・夜間のみ・その他： ）

	① 救急部門	② 病院全体
年間救急患者総数	名	**10,000** 名
年間救急車搬送患者総数	名	**5,000** 名

（申請者が勤務した期間のうち、最新の一年間の数字を記載すること。
独立した救急部門に勤務した場合は①に記入し、それ以外（病院に救急部門がない場合を含む）は②に記入すること。記入は①②のいずれか１つで良い。）

以上の通り証明します。

2027 年　**2** 月　**1** 日

病院名・病院長名は
ゴム印可

病院名：**文京総合病院**
病院長名：**文京　一郎**　　公印

所属長署名：**池袋　三郎**　　印
役職：**外科部長**

所属長
救急科専門医
認証資格者は必ず
本人の直筆署名・捺印

※所属長と指導者が同一人物の場合でもそれぞれの欄に署名・捺印のこと。

指導者
救急科専門医署名：　　印
救急科専門医番号：

（救急科専門医が不在の場合）
認証資格者署名：**新宿　花子**　印
日本救急医学会会員番号：**si0000**

【救急勤務歴証明書【救急兼任歴】（書式第３号の２）】

※ 書式第 2 号（履歴書）において、救急兼任歴として申告のある施設については、必ず本書式を提出すること。救急兼任歴の申告がない場合は提出不要
※ 書式第 3 号の 2 に訂正がある場合の訂正印は、病院長・所属長・指導者（救急科専門医、認証資格者）のいずれかの印でなければならない

勤務施設や科・部が複数にわたる場合は、それぞれ分けてこの書式を作成すること

現在の勤務先を提出する場合は、本年３月末まで見込みを記載する

兼任歴の救急勤務歴への換算は審査の際行うので、申請者はそのままの月数を記入する
兼任歴の最小単位は「1 か月以上」
※卒後初期臨臨床研修については、兼任歴は申請できない
※月数の算出については、正味で行い、１カ月に満たない日数は切り捨てる。
（例１）１月１日～4 月 25 日＝3 カ月と 25 日→3 カ月
（例２）３月 10 日～7 月９日＝4 カ月
（例３）１月１日～3 月 10 日＝2 カ月と 10 日→2 カ月

１ 施設で複数年勤務した場合、申請者が勤務した期間を含む最新の１年間の数字を記載
勤務期間が 1 年に満たない場合も、申請者が勤務した期間を含む最新の１年間の数字を記載
※1 月～12 月、４月～3 月など算出しやすい期間でよい
※病院に独立した救急部門がない場合や、各診療科での救急担当（日直・当直など）等救急部門以外で救急診療を行った場合は、「②病院全体」欄のみに記入すること。

「病院長」「所属長」「救急科専門医」「認証資格者」は申請者の在籍時ではなく、現在その施設に勤務する者とする

指導者とは、現在その施設に常勤する「救急科専門医」（不在の場合は「認証資格者」）のことをいう。
※必ずしも診療に関する直接の指導者を指すわけではありません。
※指導者が不在の施設の勤務証明書は認められない。

救急科専門医の直筆署名・捺印、救急科専門医番号を記載する。
現在その施設に勤務する救急科専門医が不在の場合は、救急科専門医欄は空欄のままとし、認証資格者欄へ記載する。

救急科専門医がいれば、認証資格者欄への記載は不要
認証資格者の直筆署名・捺印、日本救急医学会会員番号を記載する。
※認証資格者とは、「救急医学に関連する日本医学会分科会」もしくは「その他の救急医学に関連する学会・研究会」の専門医で、日本救急医学会会員であり、本学会に認証資格者として申請し認められた者をいう。